

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100345		
法人名	社会福祉法人 南郷福祉会		
事業所名	グループホーム「みのりの家」	ユニット名	すずらん棟
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地		
自己評価作成日	平成25年10月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に病院や健康福祉センターがあり、近隣の幼稚園や小学校、中学校の行事などには、声を掛けていただき、お遊戯会や運動会へ見学に行っております。また、地域の協力のもと、町内の一斉清掃や避難訓練、芋掘りなどにも参加し、地域の方々との交流を深めていると共に、地域の中でのんびり楽しく過ごして頂けるような事業所を目指しております。  
日々の生活の様子を毎月のお手紙にして送ったり、写真入りの暑中見舞いのハガキを送り、ご家族様からとても喜ばれております。  
法人では、ISOを取得し各種のマニュアルやアンケートの実施で、より良いサービスの質の向上に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅と田園風景が混在する一角にホームは位置し、敷地内には同法人の介護老人福祉施設・在宅介護支援センター・デイサービス・ヘルパーステーション・訪問入浴介護・ケアハウス・町立南郷病院と町の施設「いきいき支援センター」が隣接されている。社会福祉法人 南郷福祉会の運営者は法人も地域のものであるという考えから、地域のニーズに応えるべく共存共栄を図る福祉群を運営している。8月に管理者の交替と職員数人の異動があり当初は入居者の不穏が心配されたが、大した混乱もなく現在に至っている。地域との日常的な交流が入居者の生き生きした表情に現れ、家族アンケートからも「本人も家族も安心して生活できるホーム」であることが伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「みのりの家」)「ユニット名 すずらん棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の時に、全職員で理念を唱和しております。異動してきた職員には、理念を分かりやすく詳細に説明し、いつも目の届く所に理念を掲示し、職員一人ひとりが共有できるようにしております。	見直したが、引き続き同理念を掲げ「住み慣れた地域社会の一員として生活の継続ができる様に、家族や地域とのつながりを大切にしながら関係強化を図り家庭的な生活が営める様にする」事を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や買い物に出かけた際、挨拶を交わしたり、幼稚園のお遊戯会や幼稚園のお遊戯会へのお誘いがあり、参加し交流を深めております。また、地域の方々のご好意で芋ほりや地域の方々の協力のもと町内一斉清掃や避難訓練に参加しております。	地域の方々には法人の開業当初から、福祉群を自分たちと密接な施設でもありとし、普段から協力を惜しまないこの地域独特の交流が成されている。また、地域の行事に積極的に参加することを、入居者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加した際などに、地域の方々にグループホームでの生活の様子や対応について話しております。また、入居者様が行動症状で外出された際には、本人様が納得されるまで行動を共にすることで、地域の方々に理解を頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回開催し、ホームでのご様子や生活状況及び事業所の運営状況を報告しております。会議内容や意見を会議記録として、全職員が目を通し、サービスの向上に努めております。	美里町と地域包括支援センター職員も毎回参加し、運営推進会議は定期的に開催されている。メンバーは入居者と家族代表、地区長(民生委員と法人の評議員も兼務)は協力的でありホームのよき理解者である。入居者の顔写真を保管する等、情報や表出された意見はサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での協力をもらい、地域包括支援センターや健康福祉課の情報の提供や助言を頂いております。また、運営についての疑問点など必要に応じて連絡をとり、時には伺い助言を頂いております。	美里町の健康福祉課は近隣にあり、事業所は日頃から担当者との連絡を密に取り合い良好な協力関係が築かれている。今回の外部評価にも二人の健康福祉課の職員が終日同行し、事業所の理解を更に深められ助言も頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の専門委員会等で毎月話し合ったり、会議で勉強会を行っております。身体拘束は行わないという事を全ての職員が理解し、ケアを実践しております。	身体拘束のマニュアルをいつでも見られる様にしている。「身体拘束委員会」が主になり勉強会で学んだことを職員は理解しており、拘束のないケアを実践している。一方のユニットで職員が手薄になる時間帯のみ施錠することもあるが、自由に出て行かれる入居者には、近所の協力を頂いたり職員が連携して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から一人ひとりの身体状況の把握に努めております。職員会議での研修や法人全体の内部研修にも参加し、虐待について学んでおり、ケアの中でお互いに気づいて事を話し合い、職員全員が虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	財産管理サポートセンターを利用されている入居者様や成年後見人制度を利用しようとしている入居者様もあり、職員が制度について内部研修で学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学に来て頂き、理解と納得のもとで契約に至っております。契約の際には、十分な説明を行い、理解と同意を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族様へ入居者様の日頃の様子や変化等をお伝えし、要望等を聞いております。また、重要な話し合いの際には、相談室で話し合いの場を設けております。今後、家族の集いを開催する予定です。	来訪時やケアプラン作成時に家族の意向を聞いている。要望等は「家族連絡簿」に記録し職員間で共有している。朝はゆっくり寝ていたいという要望には本人の意向にそって柔軟に支援する等、反映させている。敬老会の日に家族の集いを予定していたが、台風の影響で忘年会まで延期された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議にて、職員からの要望を聞きとり、反映及び検討を行っております。	月1度の職員会議や、9つから成る専門委員会から要望が出される。業務日誌や個人記録は手書きだったが、利便性を考慮しパソコンでの入力に変更した結果、できた時間の余裕は入居者と関われる時間となり外出などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得後の手当や登用試験があり、向上心を持って働ける環境作りに努めております。また、育児がしやすいように勤務体制や勤務時間などの調整も行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合せた研修やリーダー研修等の長期の研修への参加をし、スキルアップが出来る環境作りをしております。法人内や毎月の職員会議での内部研修を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会や保健福祉事務所の研修やリーダー研修等に参加できる機会を設け、交流や情報交換を行えるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化から、入居者様やご家族様の不安などを聞き、安心して暮らせるように努めております。入居1週間24時間シートを記入し、その人らしい暮らしや尊厳を支えるための関係作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族様の不安や要望を聞きとり、少しでも軽減できるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのか、入居者様やご家族様からの要望を聞き、解決できるように取り組んでおります。また、福祉用具の使用も検討し説明を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るお手伝いをして頂き、役割を持つ事で職員と共に生活を支え合っております。お手伝いをして頂いた際には、感謝の言葉掛けを行うようにしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、送っているお便りで日頃のご様子を報告し、面会の際にも入居者様と過ごす時間を大切に、外泊や外出、行事への参加等にも協力を得ております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が面会に来られ、居室や食堂でゆっくり談話を楽しまれ、昔を懐かしまれております。また、定期通院や買い物の際に近所の友達と会い、交流を図っております。	敷地内の施設に入所している友人や姉妹との日常的な往来で楽しい時間を過ごしたり、馴染みの美容院や近所のスーパーでの買い物の際、知り合いに会って会話が弾む事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、食事の席を一緒にしたり、役割活動を一緒に出来るように配慮し、良好な関係作りに努めております。また、コミュニケーションが上手く図れない方には、職員が間に入り支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も寄付(タオルや野菜など)を頂き、関係を保ち、相談などの支援に努めております。また、同じ地域で生活している事もあり、外出であった際はホームに遊びに来て頂けるようにお声掛けをしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら、表情や言動などにも気を配り、入居者様の返答能力に応じた質問方法などを活用し把握に努めております。	生活の中での会話や個人記録から、本人の生活を支援する為のアセスメントを行っている。難聴の方や発語が難しい入居者には耳元ではっきり話したり、筆談でのコミュニケーションを図り意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様が、面会に来られた際に情報を収集し把握する様に努めております。日々のコミュニケーションの中から、その方をより理解できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や些細な変化をケース記録に記入し、申し送りなどで職員全員が情報を共有しながら支援を行っております。また、ケースカンファレンスで検討、対策を話し合っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の意向を確認し、ケースカンファレンスの際に検討しております。また、本人様の現状にあった、ケアプランを作成し必要な支援について話し合い、定期的にモニタリングを行いケアプランの見直しを行っております。	家族の意向を大切に、サービス担当者会議やモニタリングの記録等を総括して毎月の職員会議で話し合いがもたれている。耳の遠い方への対応についてなど、本人に合った根拠あるサービス計画書を作成し、それに基づいた効果的なケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子等を個別のケース記録に記入し、心身の状態に変化が見られた場合には申し送り、対応については連絡簿等を活用し、職員間で情報を共有しております。必要に応じて、ケアプランの見直しや検討にも活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態、必要性に応じて出張理容や専門医への受診など臨機応変に対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一斉清掃や避難訓練、芋掘りや幼稚園、小学校の行事に参加したり、町内のスーパーや美容院、外出やドライブを行い、地域の方々との交流を図り、地域の方々の協力のもと安心して生活が営めるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携を図り、必要な支援を行っております。また、入所前からのかかりつけ医を大切にし、ご家族や本人の状態も考慮し必要に応じて職員が同行し、状態の説明を行っております。	入居時に家族と話し合い、同敷地内にある町立南郷病院(内科・外科)をかかりつけ医としている。それ以外の専門医や歯科は家族と、必要に応じてケアマネジャーが付き添い受診している。結果は記録し家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週3回訪問し、入居者様一人ひとりの体調変化や状態を報告し、看護師と介護職員の間で情報共有に努めております。定期通院以外でも、状態に応じて看護師に相談し、受診して頂き、連携を図っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に主治医へ情報提供書を作成し病院へ情報を提供しております。入院中も、病棟と連絡をとり出来る限り早期に退院が出来るよう、受け入れ体制を整えるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制及び看取りに関する意思確認書を入居時に本人様とご家族様に確認しております。重度化や終末期の前の段階で、ご家族様との話し合いを持ち、必要に応じて医療機関との連携し、主治医からの意見を頂いております	看取りに関する意思確認書が作成され、家族からの同意を頂いている。しかし、看取りについての指針として不十分なところが見受けられる。早期の段階からの、家族の具体的な意向までは確認できていない。	入居者の看取りについてホームが現段階で出来る事、出来ない事を整理し、医師も含めた関係者間での話し合いをお願いしたい。具体的な内容の指針・意思確認書・同意書を成文化し、共有出来るよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、各棟へ置きいつでも見れるようにし、急変時に対応出来るように内部研修を行っております。また、緊急時の電話連絡体制の訓練を毎月行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の協力のもと、町の避難訓練に参加し、運営推進委員会などで区長さんに協力して頂けるよう呼び掛けております。また、法人全体の避難訓練や事業所内での夜間を想定した訓練を行っております。	年2回法人全体の避難訓練(夜間想定)、年1回事業所の夜間想定の実施している。町の避難訓練には入居者10名が参加している。日頃の付き合いから何かと地域の方々の協力は得られそうである。役割をきちんと依頼し、どこまで協力して頂けるかを確認して頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声を掛ける際は、自尊心が損なわれないように優しいお声掛けを心掛けております。一人ひとりに合ったお声掛けや人格、こだわりを理解し、その方に合った対応やその場面に合った対応を心掛けております。	職員は、高齢者介護で求められることは「尊厳」であることを理解し、名前にさん付けで声掛けし、これまで本人が馴染んでいる呼称を尊重している。失敗をした場合には、さりげなく居室で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中から思いや希望をくみ取れるよう心掛け、買い物に出かけた際には品物を選んで頂いたり、時にはジェスチャーで自己決定できるように対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを大切にしながら、安全に配慮し自分のペースで生活が送れるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に出張理容を活用し、本人様の好きな髪型にされております。着替えの際には、その日着たい服装を職員と一緒に選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を理解し、職員と一緒に配膳や下膳、テーブル拭きをして頂いております。時には、何か食べたい物を聞いて献立に反映し、食事が楽しみなようにしております。	法人の管理栄養士の助言を参考に、ユニット毎に工夫したメニューを作成している。外食や行事食も楽しみなものとなっている。ホームの庭で収穫した無花果の甘露煮が、外部評価で訪問した日の食卓に添えられ季節感が得られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態を提供し、食事量が減ってきている方には主治医や管理栄養士に相談し補食を提供したり、水分制限がある方には1度に摂る量を調整しながら、他の方と同じように飲んで頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時に入居者様の状態に応じた口腔ケアを行い、義歯は毎日ポリデントを使用しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を細かく記録し、排泄パターンや尿量を把握し、さりげなく声をかけ、トイレにご案内し、尿失敗の軽減に努めております。また、立ち上がりが困難な方でも、トイレにご案内し排泄をして頂いております。	排泄パターンを把握し、立ち上がりが困難な方でも出来る限りトイレでの排泄を支援している。トイレの戸を閉めると不安を感じる方にはカーテンで目隠しをし対応している。夜間は安眠に配慮し本人に合った排泄方法を取り入れている。必要頻度は少ないが、各トイレの脇にシャワーが備え付けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご家族様が定期的にヨーグルトや牛乳を持って来て頂いている方や、食事に食物繊維を多く含む食材を取り入れたり、散歩や運動をすることで予防に努めております。また、主治医や看護師と相談し、必要に応じて下剤を服薬して頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの誘うタイミングを工夫して気持ち良く入浴して頂いております。拒否のある方には、脱衣所内を温め、談話をしながら入浴して頂いたり、気が進まない方には着替えや足浴をしております。	入居者の希望で、体調が良ければ全員毎日入浴している。昔の事を職員に話したり、その日に来訪した家族の話や発声練習等、思い思いにゆったりと入浴している。床暖とハロゲンヒーターで暖かく、補助の手すりを浴槽にも設置し安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を尊重しながら、ケース記録の活用、個々の睡眠状態を把握し、安心して気持ちよく休んで頂けるよう支援しております。また、眠りの浅い時には日中の活動を多くし、安眠できるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの説明やお薬手帳がいつでも見れるようにし、薬の変更があった場合には申し送りや連絡簿に記入し、全職員が入居者様一人ひとりの症状の変化に気を配っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣の中から出来る役割を把握し、趣味活動、ボランティアとの交流、散歩や外出などの要望に応じて支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近くのスーパーへ買い物と一緒に連れて行ったり、ドライブや外食などに出かけております。また、ご家族様の協力を頂きながら、外出や外泊もされております。	近所にある自宅の窓を開け風を通したり、定期的にボランティアで来訪している方の大正琴の発表会に出向き楽しんだ。ドライブでの足湯に、車椅子の方も浸かり満足されたという事である。身内の方と一緒に掛掛け、成年後見人の手続きをした方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されたいと希望がある方には対応しておりますが、ほとんどの方は事業所のほうで預らせて頂いております。外出された際には、本人様に確認し、いつでも使えるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との電話対応時に、本人様と代わり会話をされており。また、本人様より電話を掛けたいと話された際には、ご家族様へ電話をしております。写真入りの暑中見舞いのハガキを入居者様に書いて頂き、ご家族様へ送った際には、大変喜ばれておりました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いている季節の花を飾ったり、季節感を感じる装飾品にも配慮し、居心地の良い空間を提供できるよう工夫しております。居室や共有スペースを適温調整し、温度や湿度、換気にも気を配っております。	吹き抜けの天窗から柔らかい光が射して解放感がある。紅葉をイメージした飾り物が程よく壁に掛けられている。移動式の木製の衝立と、合わせると円卓になる半円形のテーブルは入居者の状況に合わせて使い分けられている。壁際に5メートル間隔に配置されているベンチでは一休み出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVを視聴される娯楽室と取り外しが出来る量のスペースをパーテーションで区切り、気の合った入居者様同士で過ごしたり、一人で過ごせる場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人様の馴染みのある物を持って来て頂けるように、ご家族様へ話し自宅で飾っていた物や写真をお持ち頂き、安心して生活が送れるように支援しております。	愛用の日本人形を持ち込んでいる方や、自作の習字・色紙に描かれた絵・笑顔の家族写真等が飾られ、使い慣れた家具も据えられ自分らしい部屋になっている。エアコンと脱臭機が設置され快適に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が困難な方には、ベットから量に変えて自力で這って移動が出来るように対応しております。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100345		
法人名	社会福祉法人 南郷福祉会		
事業所名	グループホーム「みのりの家」	ユニット名	すみれ棟
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地		
自己評価作成日	平成25年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に病院や健康福祉センターがあり、近隣の幼稚園や小学校、中学校の行事などには、声を掛けていただき、お遊戯会や運動会へ見学に行っております。また、地域の協力のもと、町内の一斉清掃や避難訓練、芋掘りなどにも参加し、地域の方々との交流を深めていると共に、地域の中でのんびり楽しく過ごして頂けるような事業所を目指しております。  
日々の生活の様子を毎月のお手紙にして送ったり、写真入りの暑中見舞いのハガキを送り、ご家族様からとても喜ばれております。  
法人では、ISOを取得し各種のマニュアルやアンケートの実施で、より良いサービスの質の向上に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年10月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅と田園風景が混在する一角にホームは位置し、敷地内には同法人の介護老人福祉施設・在宅介護支援センター・デイサービス・ヘルパーステーション・訪問入浴介護・ケアハウス・町立南郷病院と町の施設「いきいき支援センター」が隣接されている。社会福祉法人 南郷福祉会の運営者は法人も地域のものであるという考えから、地域のニーズに応えるべく共存共栄を図る福祉群を運営している。8月に管理者の交替と職員数人の異動があり当初は入居者の不穏が心配されたが、大した混乱もなく現在に至っている。地域との日常的な交流が入居者の活き活きた表情に現れ、家族アンケートからも「本人も家族も安心して生活できるホーム」であることが伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム「みのりの家」** ) 「ユニット名 **すみれ棟** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の時に、全職員で理念を唱和しております。異動してきた職員には、理念を分かりやすく詳細に説明し、いつも目の届く所に理念を掲示し、職員一人ひとりが共有できるようにしております。	見直したが、引き続き同理念を掲げ「住み慣れた地域社会の一員として生活の継続ができる様に、家族や地域とのつながりを大切にしながら関係強化を図り家庭的な生活が営める様にする」事を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や買い物に出かけた際、挨拶を交わしたり、幼稚園のお遊戯会や幼稚園のお遊戯会へのお誘いがあり、参加し交流を深めております。また、地域の方々のご好意で芋ほりや地域の方々の協力のもと町内一斉清掃や避難訓練に参加しております。	地域の方々には法人の開業当初から、福祉群を自分たちと密接な施設でもありとし、普段から協力を惜しまないこの地域独特の交流が成されている。また、地域の行事に積極的に参加することを、入居者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加した際などに、地域の方々にグループホームでの生活の様子や対応について話しております。また、入居者様が行動症状で外出された際には、本人様が納得されるまで行動を共にすることで、地域の方々に理解を頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回開催し、ホームでのご様子や生活状況及び事業所の運営状況を報告しております。会議内容や意見を会議記録として、全職員が目を通し、サービスの向上に努めております。	美里町と地域包括支援センター職員も毎回参加し、運営推進会議は定期的に開催されている。メンバーは入居者と家族代表、地区長(民生委員と法人の評議員も兼務)は協力的でありホームのよき理解者である。入居者の顔写真を保管する等、情報や表出された意見はサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での協力をもらい、地域包括支援センターや健康福祉課の情報の提供や助言を頂いております。また、運営についての疑問点など必要に応じて連絡をとり、時には伺い助言を頂いております。	美里町の健康福祉課は近隣にあり、事業所は日頃から担当者との連絡を密に取り合い良好な協力関係が築かれている。今回の外部評価にも二人の健康福祉課の職員が終日同行し、事業所の理解を更に深められ助言も頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の専門委員会等で毎月話し合ったり、会議で勉強会を行っております。身体拘束は行わないという事を全ての職員が理解し、ケアを実践しております。	身体拘束のマニュアルをいつでも見られる様にしている。「身体拘束委員会」が主になり勉強会で学んだことを職員は理解しており、拘束のないケアを実践している。一方のユニットで職員が手薄になる時間帯のみ施錠することもあるが、自由に出て行かれる入居者には、近所の協力を頂いたり職員が連携して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から一人ひとりの身体状況の把握に努めております。職員会議での研修や法人全体の内部研修にも参加し、虐待について学んでおり、ケアの中でお互いに気づいて事を話し合い、職員全員が虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	財産管理サポートセンターを利用されている入居者様や成年後見人制度を利用しようとしている入居者様もあり、職員が制度について内部研修で学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学に来て頂き、理解と納得のもとで契約に至っております。契約の際には、十分な説明を行い、理解と同意を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族様へ入居者様の日頃の様子や変化等をお伝えし、要望等を聞いております。また、重要な話し合いの際には、相談室で話し合いの場を設けております。今後、家族の集いを開催する予定です。	来訪時やケアプラン作成時に家族の意向を聞いている。要望等は「家族連絡簿」に記録し職員間で共有している。朝はゆっくり寝ていたいという要望には本人の意向にそって柔軟に支援する等、反映させている。敬老会の日には家族の集いを予定していたが、台風の影響で忘年会まで延期された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議にて、職員からの要望を聞きとり、反映及び検討を行っております。	月1度の職員会議や、9つから成る専門委員会から要望が出される。業務日誌や個人記録は手書きだったが、利便性を考慮しパソコンでの入力に変更した結果、できた時間の余裕は入居者と関われる時間となり外出などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得後の手当や登用試験があり、向上心を持って働ける環境作りに努めております。また、育児がしやすいように勤務体制や勤務時間などの調整も行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合せた研修やリーダー研修等の長期の研修への参加をし、スキルアップが出来る環境作りをしております。法人内や毎月の職員会議での内部研修を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会や保健福祉事務所の研修やリーダー研修等に参加できる機会を設け、交流や情報交換を行えるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化から、入居者様やご家族様の不安などを聞き、安心して暮らせるように努めております。入居1週間24時間シートを記入し、その人らしい暮らしや尊厳を支えるための関係作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族様の不安や要望を聞きとり、少しでも軽減できるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのか、入居者様やご家族様からの要望を聞き、解決できるように取り組んでおります。また、福祉用具の使用も検討し説明を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るお手伝いをして頂き、役割を持つ事で職員と共に生活を支え合っております。お手伝いをして頂いた際には、感謝の言葉掛けを行うようにしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、送っているお便りで日頃のご様子を報告し、面会の際にも入居者様と過ごす時間を大切に、外泊や外出、行事への参加等にも協力を得ております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が面会に来られ、居室や食堂でゆっくり談話を楽しまれ、昔を懐かしまれております。また、定期通院や買い物の際に近所の友達と会い、交流を図っております。	敷地内の施設に入所している友人や姉妹との日常的な往来で楽しい時間を過ごしたり、馴染みの美容院や近所のスーパーでの買い物の際、知り合いに会って会話が弾む事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、食事の席を一緒にしたり、役割活動を一緒に出来るように配慮し、良好な関係作りに努めております。また、コミュニケーションが上手く図れない方には、職員が間に入り支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も寄付(タオルや野菜など)を頂き、関係を保ち、相談などの支援に努めております。また、同じ地域で生活している事もあり、外出であった際はホームに遊びに来て頂けるようにお声掛けをしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら、表情や言動などにも気を配り、入居者様の返答能力に応じた質問方法などを活用し把握に努めております。	生活の中での会話や個人記録から、本人の生活を支援する為のアセスメントを行っている。難聴の方や発語が難しい入居者には耳元ではっきり話したり、筆談でのコミュニケーションを図り意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様が、面会に来られた際に情報を収集し把握する様に努めております。日々のコミュニケーションの中から、その方をより理解できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や些細な変化をケース記録に記入し、申し送りなどで職員全員が情報を共有しながら支援を行っております。また、ケースカンファレンスで検討、対策を話し合っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の意向を確認し、ケースカンファレンスの際に検討しております。また、本人様の現状にあった、ケアプランを作成し必要な支援について話し合い、定期的にモニタリングを行いケアプランの見直しを行っております。	家族の意向を大切に、サービス担当者会議やモニタリングの記録等を総括して毎月の職員会議で話し合いがもたれている。耳の遠い方への対応についてなど、本人に合った根拠あるサービス計画書を作成し、それに基づいた効果的なケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子等を個別のケース記録に記入し、心身の状態に変化が見られた場合には申し送り、対応については連絡簿等を活用し、職員間で情報を共有しております。必要に応じて、ケアプランの見直しや検討にも活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態、必要性に応じて出張理容や専門医への受診など臨機応変に対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一斉清掃や避難訓練、芋掘りや幼稚園、小学校の行事に参加したり、町内のスーパーや美容院、外出やドライブを行い、地域の方々との交流を図り、地域の方々の協力のもと安心して生活が営めるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携を図り、必要な支援を行っております。また、入所前からのかかりつけ医を大切にし、ご家族や本人の状態も考慮し必要に応じて職員が同行し、状態の説明を行っております。	入居時に家族と話し合い、同敷地内にある町立南郷病院(内科・外科)をかかりつけ医としている。それ以外の専門医や歯科は家族と、必要に応じてケアマネジャーが付き添い受診している。結果は記録し家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週3回訪問し、入居者様一人ひとりの体調変化や状態を報告し、看護師と介護職員の間で情報共有に努めております。定期通院以外でも、状態に応じて看護師に相談し、受診して頂き、連携を図っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に主治医へ情報提供書を作成し病院へ情報を提供しております。入院中も、病棟と連絡をとり出来る限り早期に退院が出来るよう、受け入れ体制を整えるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制及び看取りに関する意思確認書を入居時に本人様とご家族様に確認しております。重度化や終末期の前の段階で、ご家族様との話し合いを持ち、必要に応じて医療機関との連携し、主治医からの意見を頂いております	看取りに関する意思確認書が作成され、家族からの同意を頂いている。しかし、看取りについての指針として不十分なところが見受けられる。早期の段階からの、家族の具体的な意向までは確認できていない。	入居者の看取りについてホームが現段階で出来る事、出来ない事を整理し、医師も含めた関係者間での話し合いをお願いしたい。具体的な内容の指針・意思確認書・同意書を成文化し、共有出来るよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、各棟へ置きいつでも見れるようにし、急変時に対応出来るように内部研修を行っております。また、緊急時の電話連絡体制の訓練を毎月行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の協力のもと、町の避難訓練に参加し、運営推進委員会などで区長さんに協力して頂けるよう呼び掛けております。また、法人全体の避難訓練や事業所内での夜間を想定した訓練を行っております。	年2回法人全体の避難訓練(夜間想定)、年1回事業所の夜間想定の実施している。町の避難訓練には入居者10名が参加している。日頃の付き合いから何かと地域の方々の協力は得られそうである。役割をきちんと依頼し、どこまで協力して頂けるかを確認して頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛けをし、こだわりを理解し対応をしています。排泄などの声掛けや失禁時には、さりげなく行い他の方に気づかれないように配慮しております。	職員は、高齢者介護で求められることは「尊厳」であることを理解し、名前にさん付けで声掛けし、これまで本人が馴染んでいる呼称を尊重している。失敗をした場合には、さりげなく居室で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の様子から、思いや希望を把握できるよう心掛け、自分の思いや希望を表しやすい雰囲気作りに努め、自己決定できるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れの中で「のびのび ゆったり その人らしく」入居者様が、自分のペースで生活が営めるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容院を利用したり、定期的に出張理美容を活用し本人の希望する髪型にしております。また、季節や好みに合った衣類を選んで頂き、おしゃれが楽しめるよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用した献立にしたり、入居者様と一緒に食事の準備や片付けを行っております。時には、利用者様から調理方法や味付けなどを教わったり、食べたいメニューを聞き取り、献立に反映しております。また、嚥下困難な方には、食事形態を工夫しております。	法人の管理栄養士の助言を参考に、ユニット毎に工夫したメニューを作成している。外食や行事食も楽しみなものとなっている。ホームの庭で収穫した無花果の甘露煮が、外部評価で訪問した日の食卓に添えられ季節感が得られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を記録し摂取量の把握に努めております。食べやすいように調理をしたり、刻みやトロミ食にしたり、水分補給にも十分に気を配っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と夕食後には歯みがきを行い、義歯については洗浄剤に浸け置きし消毒を行っております。必要に応じて、歯科受診もしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を細かく記録して、排泄パターンや尿量を把握した上で、自尊心を傷つけない声掛けやトイレ誘導を行い、尿失敗の軽減に努めております。夜間はリハビリパンツを使用している方が、日中は布パンツにて生活して頂き、自立支援に努めています。	排泄パターンを把握し、立ち上がりが困難な方でも出来る限りトイレでの排泄を支援している。トイレの戸を閉めると不安を感じる方にはカーテンで目隠しをし対応している。夜間は安眠に配慮し本人に合った排泄方法を取り入れている。必要頻度は少ないが、各トイレの脇にシャワーが備え付けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ以外にも水分補給に努め、乳製品や繊維の多い食べ物を摂取して頂いたり、散歩や運動し予防に努めております。また、主治医や看護師と相談し必要な場合には、下剤を服薬して頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に応じて、いつでも入浴できるよう支援しております。毎日入りたいと話される入居者様には、毎日入浴して頂き、入浴する事に気が進まない方に対しては、清拭や足浴、着替えを行い対応しております。	入居者の希望で、体調が良ければ全員毎日入浴している。昔の事を職員に話したり、その日に来訪した家族の話や発声練習等、思い思いにゆったりと入浴している。床暖とハロゲンヒーターで暖かく、補助の手すりを浴槽にも設置し安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ケース記録を活用し、入居者様一人ひとりの睡眠状態を把握し、夜間休まれない方には日中の離床時間を長くし、レクリエーションなど活動していただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎のお薬手帳などで確認し、薬の変更時には申し送りや連絡ノートへ記録し全職員が情報を共有しております。また、一人ひとりの症状の変化に気を配っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなこと、出来ることを把握し、その方のペースに合わせて行っております。また、ボランティアの方々の協力もあり、民謡、書道、大正琴を楽しんで頂いております。ドライブや買い物、外食、散歩、行事など要望に応じて気分転換が図れるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けられたり、買い物と一緒にいかれたり一人ひとりの希望に沿って外出が出来るように支援しております。また、ご家族様の協力を頂きながら、外泊や外出の機会が増えるように働きかけております。	近所にある自宅の窓を開け風を通したり、定期的にボランティアで来訪している方の大正琴の発表会に出向き楽しんだ。ドライブでの足湯に、車椅子の方も浸かり満足されたという事である。身内の方と一緒に出掛け、成年後見人の手続きをした方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布を持っている方には、買い物のときに自分で支払って頂き、管理が難しい方には事業所で預らせて頂き、必要な時にいつでも使えるように支援しております。また、支払いが出来る方には、お財布を渡し自分で支払っていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおり、自由に連絡を取っております。ご家族様からの電話には、本人様に取り次いで会話をさせて頂いております。また希望があれば、電話をかけ会話をさせていただいております。写真入りの暑中見舞いのハガキを、ご家族様に送った際には大変喜ばれておりました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた頂けるように音や光、音の調節に心がけております。季節に合せた装飾品を飾ったり、草花を飾って季節感を感じて頂いております。	吹き抜けの天窗から柔らかい光が射して解放感がある。紅葉をイメージした飾り物が程よく壁に掛けられている。移動式の木製の衝立と、合わせると円卓になる半円形のテーブルは入居者の状況に合わせて使い分けられている。壁際に5メートル間隔に配置されているベンチでは一休み出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチで独りになれるスペースやパーテーション等を活用し、気の合う入居者様同士が楽しく談話が出来るよう工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物や使い慣れた物を持って来て頂いたり、ベットか畳かを選んで頂き、居室でも居心地の良い空間作りに努めております。また、ご本人様の要望を取り入れながら、居室の模様替えも行っております。	愛用の日本人形を持ち込んでいる方や、自作の習字・色紙に描かれた絵・笑顔の家族写真等が飾られ、使い慣れた家具も据えられ自分らしい部屋になっている。エアコンと脱臭機が設置され快適に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線に合わせて居室の表札を分かりやすい位置に変えたり、居室の場所が分からなくなる方には扉にも大きく表札を貼っております。		